

猿 橋  
小 学 校

瑛 玖 良

瑛玖良校は明治期における猿橋小の旧名。切磋琢磨の意が込められている。

## ネガティブ本能にとらわれない

校長 澁谷 一男

見上げる秋の空は、まるで天井が抜けたように高く、澄み渡っている。つい先日まであんなに暑かったのが嘘のように、肌に当たる風もさらりと心地よい。

「世界の人口のうち、極度の貧困にある人の割合は、過去20年でどう変わったでしょうか？」

- A：約2倍になった      B：あまり変わっていない  
C：半分になった

これは、昨年ベストセラーになった「ファクトフルネス」という本の中にある問題だ。著者は、スウェーデンの医師で、ユニセフのアドバイザーなども務めるハンス・ロズリング氏。日本を含む世界14か国、1万2千人を対象にした調査問題の一つである。この問題の正答率は、わずか7%だったそうだ。

正解はC。ちなみに私はBを選択した。しっかり、93%の多数派に入ってしまったわけだ。昨今、貧困や格差の拡大に関する話題は、ニュースなどでよく取り上げられる。また、世界には、紛争や内戦の絶えない地域もある。これらの情報から、極度の貧困率が半分になったとは考えられなかったのである。

ロズリング氏は、正答率が低い要因は、「ネガティブ本能」にあると指摘する。「ネガティブ本能」とは、「物事のポジティブな面よりもネガティブな面に気付きやすいという本能」を言う。ポジティブなニュースよりもネガティブなニュースの方が圧倒的に耳に入りやすく、広まりやすい。すると、物事について実際よりも悪い、世の中はどんどん悪くなっているという思い込みに陥ってしまう、というのだ。ましてやコロナ禍により、現在は、一層この「ネガティブ本能」にとらわれやすい状況にあると言えよう。もちろん楽観はできないが、決して悲観することなく、日々の教育活動を着実に進めていきたい。

折しも親善陸上大会が開催されるはずであった9月24日、6年生が「チャレンジ・プロジェクト」の一環として、「体育学習発表会」を行った。運動会も陸上大会も中止となった今年、「それに代わる行事を！」という子どもたちの発案から実現した行事である。長い教員生活の中で、子どもたちの手による、これほど大規模な体育的行事は、これまで経験したことがない。正に、子どもたちがポジティブな思考で計画し、実行してくれた行事だった。

発表会をやり遂げた子どもたちの顔は、澄み切った秋の空のように晴れやかだった。

